

第3回 新宮市文化複合施設管理運営検討委員会 会議概要

日時：平成28年3月27日（日） 午後1時30分～午後4時00分

場所：教育委員会3F会議室

【出席委員】

堀内委員、関委員、川口委員、船上委員、榎本委員、山本委員、高委員、丹羽委員、勢古委員、竹中委員、雑賀委員

【欠席委員】

那須委員、丹羽委員、城庵委員

【事務局】

田岡市長、楠本教育長、片山教育部長

文化振興課：畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、南係長、小林主事、篠原主事

図書館：道前係長

【支援業者】

シアターワークショップ：伊東氏

【傍聴6名】

<開会>

【委員長】

第3回の管理運営検討委員会では、本来ならワークショップをする予定だったが、前回市長から話のあったとおり設計見直しのお話を伺う会となる。見直し案が固まらないと具体的に議論できることが少ないので、引き続き見直しについての事務局から報告いただき、これからの管理運営検討委員会の進め方についてみなさんと協議したい。

<報告1. 前回の確認事項>

【事務局】

前回の検討委員会では、市長より見直しの説明があった。「報告1. 前回の確認事項」は、基本設計と検討委員会の提言書は与えられた条件に沿って作成したもので、文化ホール・図書館・熊野学センターの3機能を3棟で構成する内容であったが、財政上の理由で市長より2棟設計への見直しが説明された。当委員会として提言書の内容を覆すことは認められないため、3機能3棟の前提で進める。今後、市が見直しを検討し、内容が示されたあとに当委員会の進め方を決定する。

【全体】

特に疑義はなし。

【委員長】

補足すると、設計検討委員会では設計者、委員会、ワークショップを経て、コストや将来運営の面で3棟がベターということをして市から与えられた条件のもとで提言した。市長の苦渋の決断とは

思うが、提言を最大限尊重することや、基本設計の予算案の可決後に、提言と違う説明があったため、唐突で認められないという話を前回の検討委員会は終了した。
いろんな意見があるとは思いますが、市長から具体的な見直し案の進捗報告を伺う。

＜報告 2. 市長報告（2 棟案について）＞

【市長】

総事業費の増加とランニングコストの面で、施設設計の見直し（熊野学棟の縮減）を前回説明した。図書館機能としての郷土資料のアーカイブ機能や、中上健次コーナーを図書館棟の中へ納める案として、基本的には老朽化した図書館と市民会館の建てかえとして進めていく形になった。申し訳ないが、今後の管理運営検討委員会では 2 棟案で協議をしていただきたい。事務局から 2 棟案の概要を説明するので、意見を伺いたい。

【事務局】

あくまでたたき台だが、2 棟案に変更するにあたり、以下の 3 つのポイントを押さえている。

（2 棟案の基本方針）

- ①建設費が高くなならない合理的な計画とすること
 - ②導線の明確な分離を図り、管理運営のしやすい計画とすること
 - ③ホール棟と図書館棟が一体感のあるデザインとすること
- ①については、熊野学棟に配置してあった熊野学アーカイブ等は、図書館棟の 2 階に納めると、2 階部分の総面積が増えてしまうため、図書館棟の基礎や柱・梁が増え建設費の増大につながる。1 階に配置し、図書館棟を総 2 階建に近い形にする。
- ②については、資料の右側に説明が記載されてある。図書館と図書館以外の部分の導線を明確に分けることで施設管理が行いやすい形とした。エレベーターと階段を図書館棟の東側に設置する。
- ③については、設計者と検討しながら進めて行く。

（図面関係の資料の説明）

左側の平面計画の主な変更点は、L 1 から H 1 までの 7 項目ある。大きな変更部分は、No. 3 の図書館の貸出・返却カウンターを 2 階から 1 階へ変更した。L 4 の熊野学アーカイブ、中上健次コーナーを図書館棟 1 階に配置することにした。

資料の右側の床面積は、3 棟案が約 7 7 5 0 m²であったが、2 棟案では約 6 7 0 0 m²で、3 棟から 2 棟にすることで約 1 0 0 0 m²床面積を縮減して建設費の圧縮を図っている。

【委員長】

2 棟に変更して平米数が縮減され、工事費と付随経費はいくらになるか？計画変更で設計費の負担はいくらか？工事費 4 8 億、付随経費 7 億の 5 5 億という予算に無理はなかったか。

【事務局】

概算経費の計算はまだだが、総事業費 5 5 億円に抑えるという大きな課題をクリアしたい。

熊野学棟の一部機能を図書館棟に設けるため、その分の工事費が変動するが 2 棟への縮減分と相

殺するよう検討していく。契約変更分は設計者と相談中。

【市長】

付随経費は1億から2億くらいはみ出すのでないかという想定はあったが、約5億と判明したため、市長として財政的に厳しい数字と判断して見直しを検討させていただく。

【委員長】

総事業費55億と59.8億の違いを考えると、市の負担はいくらになるのか？

【事務局】

55億の場合は、実質的な負担額は基金を除いて約5.6億となる。59.8億の場合は、約6.6億円となる。自主財源の追加負担は約1億円となる。(増分4.8億のうち50%=2.4億が国、残り2.4億×7割=1.68億が過疎債、残り7,200万が市の実質負担という意)

【委員】

- ・現時点では当時の3棟案でお願いしたい。
- ・図書館棟についてランニングコストの実質的な数値を知りたい。
- ・2棟案で懸念されることは、市民会館と図書館の建て替えに重点がいき、熊野学が薄れてしまうこと、熊野学をどこまで組み込めるか。
- ・予算的に3棟が難しいと言う点は市民感情からは賛成できるが、2棟案に変更しても予算が具体化されていないため不安。
- ・予算の関係で3棟が実現できないというのはしかたないと思う部分もあるが、2棟案でも果たして実現可能なのか不安。設計が先に一人歩きしているため、熊野学棟と図書館を利用する市民の声がどれだけ反映されているのか疑問。
- ・建て替えではなくて、地域活性の総合戦略的な施設建設だと思う。ランニングコストは10年、20年続くため、市の財政を見通して具体的でないとしても市長の思う条件提示してほしい。一人でも多くの市民に新宮市がやっている事業をわかってもらい、いろんな事業提案を拾いたい。早く市民ワークショップをいろんな形で行いたい。
- ・どこに問題があったかを考えたい。体制に無理があるのかもしれないため、準備室を作ったかどうか。県の補助金が確定的でないところを教えてほしい。
- ・もともとの建設構想は熊野学から始まった話。全国から注目されている熊野学の火を消すことには納得いかない。

- ・ 1 から始めないといけなくなった。案をまた初めから始めるには時間が足りない。戦略事業の補助金も全く間に合わないようにならないか不安。建設ができないようなことになれば、市民のためにならない。同じ繰り返しにはならないように要望する。

【市長】

なるべく早く具体的な数字を示したい。ランニングコストの上限は現在不明。運営を直営にするのか指定管理など、方法をこれから話し合っていていただきランニングコストも変化すると思っている。準備室なども検討したが、人員増員で対応した。

【委員長→支援業者】

- ① 基本設計を変更する場合に、実施設計の段階で組み込んで負担を調整することはできるのか？
- ② 建物と事業が固まっていない時に、ランニングコストをどう議論していくことができるか？

【伊東氏】

①日本では設計を見直ししても自治体側が予算増加をしてもらえていないことがこれまでは多かった。現在は、建築業界で疑義が生じ、変更があれば増加要求することもある。実施設計で面積自体の縮減があればシビアに対応すれば増額も減額の要素もある。実施設計の段階での調整も可能と思われる。②方向性と設備の内容が決まらなければ具体的なランニングコストは計算しづらいが、既存の施設を参考に平米あたりのランニングコストで目安は算出できる。

【委員】

- ・ ホール棟を縮減などの見直しに触れなかったのはなぜか？
- ・ 3 棟案に戻す気はあるか？

【市長】

2 棟案でお願いします。交付金の関係もあり完成は遅らせられない。おおむね 3 か月以内にははっきりとした基本設計を作りたい。

【委員長】

続いて、この委員会をどうするかの議論に進む。

【伊東氏】

具体的な管理運営の話は次回にする。議論の仕方は、事業から説明していこうと思う。建物がどうあろうとホール、図書館、熊野学はどうするかの議論は残るが、まず、どういうことをやるべきかという議論から入り、設計とやりとりしながら形を作っていくという流れで、早くスタートしないといけない。

【事務局】

現在は、たたき台として出している。図書館棟での一階部分で総合事務室など大きくレイアウトが変わる。熊野学棟に含まれていた2階部分の中上健次・熊野学アーカイブは図書館の1階部分に配置された。配置されたことで3棟案時の図書館の配置も変更となった。総事業費55億の施設設計をすることが前提だが、市長は議会でホール棟はそのまま残したいと意向を述べている。

【委員】

- ・2棟案のたたき台は今後どのように決定に向かうのか？

【事務局】

基本的には三役が中心。市と設計業者と考えてほしい。

文化複合施設については所管事務調査で議会とも協議して進めている。6月議会で承認などという話ではなく、4月～6月の3か月で基本設計のスケジュールで見直ししていかないと最終完成年度の30年度には間に合わないというスタンスで進めていっている。

管理運営検討委員会では、事業運営の面でどのように取り決めていくか職員のみでは知識が足りないため有識者の意見を聞きながら進めていきたいと思っている。

【委員】

図書館に関することで、設計委員会でも提言したが、備品（建付けも含む）を別途発注すればコストを抑えられるので再度提言したい。そのためには手間とノウハウが必要なため協力したい。

【事務局】

貴重なご意見。備品購入費で対応するもの、設計の中に組み込むものを住み分けして現状は考えている。今決めるということではなく川口委員や図書館の職員とか有識者の方に協議いただきながら進めていきたい。

【委員】

- ・たたき台が予算の話からできあがってきているが、市民からの意見を拾えていない気がする。ワークショップで声を拾い上げていくのが大事。
- ・2棟に決まったのであれば管理運営検討委員会では2棟案でたんと進めていきたい。
- ・市民の参加がないと管理運営計画は進まない。文化や熊野の大切さを共有できるようにして、関心のある者から無関心者にも情報発信できる体制を作りたい。
- ・建物がなくても熊野の発信はできる。
- ・情報収集と交換する力が必要。行政・議会・検討委員会で努力しないとうまくいかない。

【委員長】

この管理運営の基本理念については従来からの設計検討委員会の流れを受けて、シアターワークショップがなんのための文化ホールなのかということも提案してくれている。単に事業のノウハウ部分だけではなく、何のために文化ホールで事業するのか文化ホールと街づくりとの関係はいかにかという話は、これからワークショップや委員会で議論されていくと思う。

（次回の日程）

4月15日（金）

方針が変更されたが、最後まで13人全員で管理運営検討委員会を続ける意思確認が行われた。

<閉会>